

第五次蔵王町長期総合計画

蔵 王 町

【目次】

はじめに.....	1
第1部 計画策定の背景と課題.....	3
第1章 いまは、どういう時代なのか.....	3
第2章 とともに創るまちの未来.....	4
第3章 まちづくりの課題.....	5
第2部 基本構想.....	7
基本構想の体系.....	7
第1章 基本理念.....	8
第2章 まちの未来像.....	9
第3章 まちづくりの基本方針.....	11
第4章 重点戦略.....	13
第5章 計画の推進体制.....	15
第3部 前期基本計画.....	16
基本計画の体系.....	16
基本方針1 健やかなまちづくり（保健・医療・福祉）.....	26
基本方針2 学び楽しむまちづくり（教育・文化・スポーツ）.....	38
基本方針3 美しい快適なまちづくり（環境・生活基盤）.....	50
基本方針4 活気あるまちづくり（産業）.....	65
基本方針5 共に創るまちづくり（町民参加・安全・行政運営）.....	80

はじめに

■ 総合計画とは

総合計画とは、地方自治体がさまざまな取組を行う上でより所となる最上位の計画であり、基本理念、まちの未来像やまちづくりの基本方針、重点戦略、その具体的な施策などを総合的、体系的に示したものです。

また、この総合計画が真に役立つためには、町民が計画の目的や手段を理解し、地域課題解決の主体となっていくことが重要です。

■ 計画策定の趣旨

本町では、平成20年3月に平成29年度を目標年次とした「第四次蔵王町長期総合計画」を策定し、町政の各種施策を展開し、町民福祉の向上に努めてきました。

この間、人口減少に伴って、暮らしや経済、地域コミュニティへのその影響が少しずつ大きくなる一方、東日本大震災を経験し、人と自然、人と人の関係を重視した、ともに生きる地域社会のあり方が見直されています。

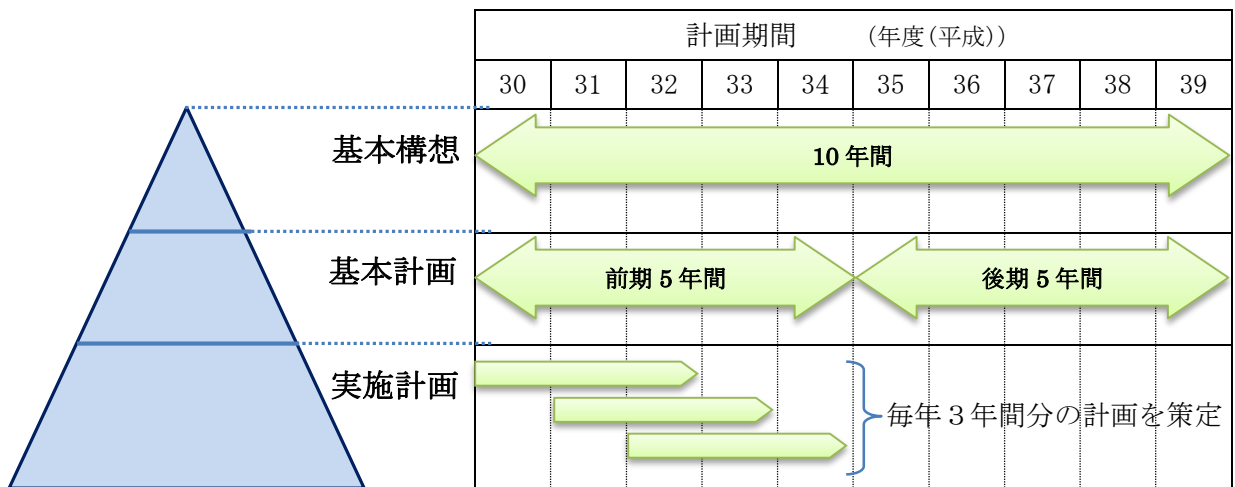
本計画は、まちの未来像を町民と行政が共有するとともに、その実現に向けて重点的に取り組むべき施策を明らかにすることを目的に策定するものです。

■ 計画の構成と期間

総合計画の構成は、大きく3つのものから構成されます。

本計画の本編は、基本構想、基本計画で構成し、これとは別に実施計画を作成します。

計画期間は平成 30 年度から平成 39 年度までの 10 年間です。



基本構想… 蔵王町が目指す未来像と、その実現のためのまちづくりの基本方針を示したもので、基本計画、実施計画の基本となるものです。

計画期間は、長期的な視点に立ったまちづくりを進めていくため、平成 30 年度から平成 39 年度までの 10 年間です。

基本計画… 基本構想が描く未来像、まちづくりの基本方針を実現するための各分野別の施策と取組を示したものです。

計画期間は、総合計画の適正な進行管理と状況に応じた柔軟な施策展開を図るため、中期的な観点から前期と後期（それぞれ 5 年間）に分けて策定します。

実施計画… 基本計画に掲げた施策の取組を受けて、具体的に実施する事業の内容を示すものです。

計画期間は 3 年を単位として、国、県の施策の動向や、町の財政状況を勘案して毎年度見直しを行います。

第1部 計画策定の背景と課題

第1章 いまは、どういう時代なのか

我が国の人口は、人口増から人口減へと大きな転換期を迎えましたが、それだけではありません。経済成長の鈍化やつながりが希薄な社会の進行、地域コミュニティの衰退などの社会問題が現れています。これまでの豊かさの基準であったモノの豊かさでは真の豊かさや幸福を手にすることができないかもしれない、と私たちは感じはじめています。

その一方で、新しい生きがいや働きがいを求めて都会を離れ、地方へ移り住む人々が増え「地方＝遅れた地域」というこれまでの固定観念が崩れています。かつて話題になった定年後の第二の人生というようなくくりには収まりきれないほど、多様な移住や定住の試みが見受けられるようになりました。

自然豊かなところで農的な暮らしを楽しみ子育てもする、自分の経験や技を生かして地方で起業し活躍するなど、自然とともに生きるライフスタイルを再評価する動きが若者などを中心に広がっています。

このように、今の日本社会は大きな転換期を迎えており、古いものと新しいものが混在しています。

これからのまちづくりにおいては、時代の変化を受け止め、新しい時代の思想や創造的なアイデアを生かせるよう、町民相互の対話を大切にしなければなりません。地域を基礎とした人と人の関わり合いが新しいまちをつくり、実践の中から担い手が生まれるという認識が、この第五次長期総合計画には求められています。

第2章 ともに創るまちの未来

これからは、固定観念にとらわれない発想が必要です。形や見栄えの良い計画ができて、実践が伴わなければ良い計画とはいえません。未来へ向けた考えが町民に伝わり、共感をよび起こし、アイデアを行動に結び付けることが重要です。

まちづくりの政策実現をめぐって、多くの市町村が似通った政策を打ち出しているながら、発展する地域、衰退する地域が生まれるのは、裏を返せば、素晴らしいアイデアが地域の未来を必ずしも保証するものではないということを表しています。

確かに成長発展を基調としていた時代は、基盤整備を中心に効率的な分業体制をつくることで、政策実現の効果を人々は実感することができました。しかし、これからの時代は、複雑につながり合った諸課題を一体的に解決していく視点が重要になります。さらに、政策の実行力という点では、状況の変化に柔軟に対応し、創意工夫を生かせる町民主体のまちづくりを深化させていくことが大切です。

あくまでも計画は終わりではなく、始まりです。

本計画では、町民主体のまちづくりを模索するため、蔵王町の未来デザインをテーマとして、ワールドカフェ※を企画・実施するなど、これまでとは異なる対話を重ね、そのなかで開かれた「場」の有効性を感じ取りました。

地域・町民と行政が同じ目標に向かい知恵と力を出し合いながら、ともにまちづくりを進めていくことが必要です。

※ワールドカフェとは

話し合いの手法の1つ。カフェのようなリラックスできる雰囲気の中で、メンバーの組合せを変えながら、4~6人の小人数で話し合いを続けることにより、深い相互理解や新しい知識を生み出す話し合いの手法です。

第3章 まちづくりの課題

各種データによる現状把握のほか、町民会議、検討部会、ヒアリング、ワールドカフェ等における意見を分析・考察し、まちづくりの課題をまとめました。

(1) まちづくり全体に共通する課題

全国的な人口減少が進行する中、本町においても少子高齢化、若者の都市部への流出が進んでおり、対応が必要になっています。また、地震、台風などの自然災害は増加傾向にあり、平成27年には蔵王山火山口周辺警報が発表されるなど、自然災害に対する防災力の強化は、まちづくりの基本的な課題として認識されています。

各種会議において、どの場面でも意見として多く出されたことは、豊かな自然環境、農産物の種類の多さ、近隣市町へのアクセスの良さなど、蔵王町の環境や景観、基盤、立地という「強み」と、その可能性についてでした。その一方で、こうした豊かさが当たり前のもとなっており、町民がその素晴らしさに気付いていない、うまくアピールできていない、といった意見もありました。

今後は、蔵王町の「強み」を町民自らが再認識し、誇りを喚起し、さらに価値を磨いて発信し、より自立した地域社会を構築していくことが求められています。

(2) 5つの分野における課題

第四次長期総合計画における施策の大綱別に内容を検証し次のとおり課題をまとめました。

■ 健やかなまちづくり (保健・医療・福祉)

保健・医療・福祉の分野では、これまで着実に施策が実行され、特に、子育て支援や高齢者が安心して暮らせる見守り体制の推進等において効果を上げてきました。

今後は、長期的な視点に立った人口減少対策という観点も踏まえ、子育ての実態に応じたきめ細かな支援に力を入れていく必要があります。また、病院の利便性の向上、疾病予防に関する支援、高齢者世帯に対する生活支援の拡充等が期待されており、さらなる地域福祉の充実を図る必要があります。

■ 学び楽しむまちづくり (教育・文化・スポーツ)

教育・文化・スポーツの分野では、これまで着実に蔵王町らしい特色ある施策が実行さ

れてきましたが、一方では、子どもが生きる力を養える教育や遊ぶ環境の整備、地域の魅力を実感できる活動の充実や、人材の育成などを望む町民の声もあります。

今後は、子どもたちが地域に誇りと愛着を持ち続けるために、家庭・地域・学校の連携がますます求められています。また、東京オリンピック・パラリンピックへの社会的な関心が高まるなか、本町の地理的な特性や地域資源を活用したスポーツ交流の舞台を創出し、さらなる交流人口拡大と地域活性化につなげていくことが必要になっています。

■美しい快適なまちづくり（環境・生活基盤）

環境分野では、環境モデル地域を目指し、自然環境の保全に重点的に取り組んできました。その一方、災害に強い道路や住環境整備など生活基盤の改善、公共交通の充実を求める町民の声もあります。

今後は、都会でも田舎でもない、ほどよく暮らしやすい本町の魅力を再評価し、自然と調和した美しいと感じることができる生活環境等の形成に取り組む必要があります。また、それらの施策を若者や子育て世代の定住、移住につなげていくことが望まれています。

■活気あるまちづくり（産業）

産業分野では、基幹産業である農業と観光のまちづくりを進めてきましたが、農業をはじめとする各種産業において就業者数の減少と高齢化が進んでおり、担い手の確保が課題となっています。

今後は、経営が成り立つ農業、森林を生かした新事業、魅力ある商工業等、それぞれの産業の競争力を強化するとともに、蔵王の知名度を生かした観光まちづくりや、さらなる物産ブランドの振興に努める必要があります。また、若者から高齢者まで得意分野を生かして地域に貢献できるような取り組みを進めることが期待されています。

■共に創るまちづくり（町民参加・安全・行政運営）

町民参加の分野では、「町民が主役、地域が主体のまちづくり」を基本理念とし、個性ある地域づくり活動の促進に取り組んできましたが、活動する人材の固定化や新たな担い手の不足等、地域の問題も顕在化してきています。また、蔵王山火口周辺警報や東日本大震災を経験し、町民の防災への関心が高まっています。

今後は、気軽に集まれる場や機会を創出するなど、町民の創意工夫を地域づくりに生かすための体制整備が必要となっています。また、防災や減災に対する総合的な対策も優先的な課題となっています。

第2部 基本構想

基本構想の体系



第1章 基本理念

町民が主役・地域が主体のまちづくりを進める上で大切にする「基本理念」は、第四次長期総合計画の基本理念を継承し、次の4つを定めます。

郷土愛の醸成

豊かな自然環境や歴史文化、産業が融和した郷土の理解を深めながらまちづくりを進めます。

結いの精神

町民相互の関係や、地域、企業などの協体制度を構築し、それぞれの役割で、結いの精神を育成しながらまちづくりを進めます。

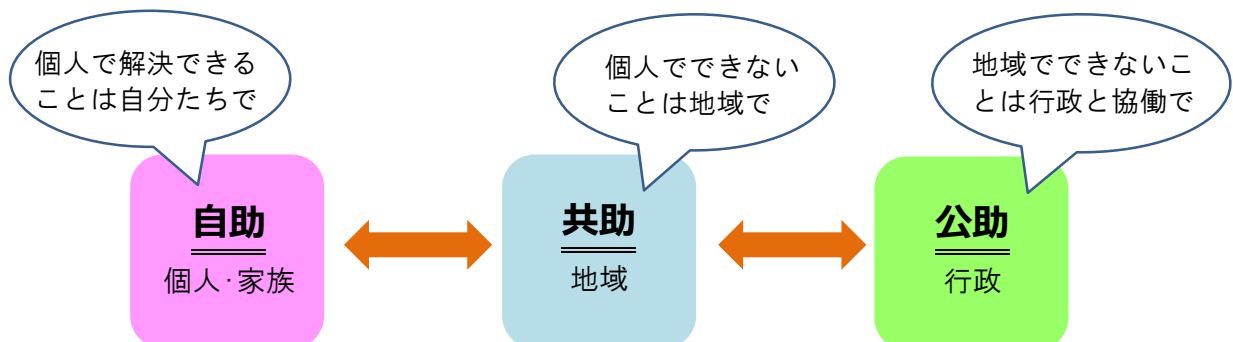
町民力の結集

「自分たちのまちは自分たちがつくる」という自覚を高め、町民の自主性と創意工夫によるまちづくりを進めます。

助け合い

地域の課題を解決するにあたり、「自助」「共助」「公助」※により解決するという考えのもとまちづくりを進めます。

※自助・共助・公助



第2章 まちの未来像

まちづくりを進めるうえでの4つの基本理念に基づき、実現すべき本町の未来像を次のとおり定めます。

ずっと**愛**にあふれる
オンリーワンなまち・ざおう

本町の豊かな自然を愛する心、人を愛する心、郷土を愛する心で、魅力あるまちづくりのために

「ずっと愛にあふれるオンリーワンなまち・ざおう」を目指します。

みんながそれぞれの胸に抱いている、いくつもの地域の誇りを磨き、愛着を深めながら、その多様で豊かな文化を積み上げることにより、みんなが活躍する人となって地域を活性化し、これまで以上に蔵王町に誇りと愛着を感じることができるまちづくりに取り組みます。

また、大きな時代の転換期を迎え、これからどんな時代が来ようとも「やっぱり蔵王が一番」と言えるような、憧れのまち・蔵王を目指していくことが、私たちの理想です。

地域のそれぞれの資源や特性を生かして蔵王をブランド化しながら、まちの魅力を未来につないでいきます。

町民誰もが住み続けたい、住んで良かったと思える、そして、町外の人たちが蔵王町を訪れてみたい、いつか住んでみたいと思えるよう、ずっと愛にあふれるオンリーワンなまち・ざおうを実現していきます。

第3章 まちづくりの基本方針

まちの未来像の実現のため、第四次長期総合計画の大綱を引き継ぎながら発展させるため次の5つの基本方針を定めます。

基本方針は、まちの未来像の実現に向けた方向性を示すものであり、同時に、基本計画の施策の柱になるものです。

(1) 健やかなまちづくり (保健・医療・福祉)

健康であることはだれもが望んでいるものです。

すべての町民が、健康的で生きがいのある生活を送れるよう、引き続き保健・医療・福祉の充実を図ります。

また、安心して子どもを産み育てることができ、高齢者や障がいのある人が安心して生活できる環境を整えるとともに、地域でお互いを見守り支え合える体制を整え、町民みんなが健康で安心して暮らせる、健やかなまちづくりを目指します。

(2) 学び楽しむまちづくり (教育・文化・スポーツ)

蔵王の未来を担う次世代が、地域に愛着と誇りを持つことが大切です。

子どもたちが地域に愛着と誇りを持ち続け、時代の変化に対応できる柔軟性など、「生きる力」を育てる教育の充実を図るため、家庭・地域・学校が連携し、蔵王町の環境を生かした教育に取り組みます。

また、町民だれもが生涯を通して地域文化やスポーツなどに触れ、世代を超えて学びあうことで、心豊かに地域への誇りを育む、学び楽しむまちづくりを目指します。

(3) 美しい快適なまちづくり (環境・生活基盤)

蔵王の美しい山並みは、原風景として人々の心に刻まれています。

雄大な蔵王連峰が目の前に広がり、緑あふれる森林、清らかな水などの素晴らしい自然の恵みがあります。また、近隣市町へのアクセスが良好な生活環境も備えています。

都会でも田舎でもない、ほどよく暮らしやすい本町の特性を生かして定住環境の充実を図るとともに、景観にも配慮した持続可能な社会を形成することにより、美しい快適なまちづくりを目指します。

(4) 活気あるまちづくり (産業)

農業と観光は町の基幹産業です。

品目豊かな農林業や、温泉を中心とした観光業、地域の特性を生かした各種産業が営まれており、これらが連携することにより、モノのブランド化と地域イメージのブランド化に一体的に取り組み、安定した雇用を創出し、若者から高齢者まで活躍できる社会を目指します。

また、地域資源をフル活用した起業支援、企業誘致、地域企業の強化等により、多様性を生み、活気あるまちづくりを目指します。

(5) 共に創るまちづくり (町民参加・安全・行政運営)

町民みんなが活躍できるまちづくりに取り組みます。

そのため、前計画の「町民が主役、地域が主体のまちづくり」の経験を生かし、町民、企業、自治組織やボランティア団体等と行政の協働によるまちづくりを発展させていきます。

また、誰もが気軽にまちづくりに参加できる場や機会を拡充し、町民一人一人のまちづくりへの関心を高めるとともに、防災や減災への対策強化の一つとして、自主防災体制の強化に取り組むなど、共に創るまちづくりを目指します。

第4章 重点戦略

未来像の実現に向けて、5つの基本方針に基づく各種施策に取り組みますが、実行力を高めるためには他の事業を牽引する先導的な施策に重点をおいて進めていくことが必要です。

本計画では、町の現状や課題等を踏まえて次の3つの重点戦略を掲げ、これに基づく施策に重点的に取り組んでいきます。

未 来 像

ずっと愛にあふれるオンリーワンなまち・ざおう

3つの重点戦略

1. **Z**utto 「ずっと住み続けたい快適な環境づくり」
2. **A**iniafureru 「愛にあふれるふるさとづくり」
3. **O**nly one 「オンリーワンな魅力づくり」

この3つを重点戦略に**まち**をつくりあげていきます。

1. 「ずっと住み続けたい快適な環境づくり」

教育環境の充実と、国際化に対応した「人」づくり、みんながずっと住み続けたいと思える快適なまちづくりを進め、「蔵王の環境」がまるごとブランドとなるまちを目指します。

主な取組として

- 英語教育の充実と国際交流の促進（英語教育の推進、ホストタウン交流）
- 活力ある学校づくりの推進（小中学校の統合）
- 空き家対策・移住定住支援策の充実（空き家を活用した移住者支援、移住定住者の経済的支援）
- 地域公共交通の利便性向上（公共交通計画の策定と交通網の整備）
- 安全で快適な道路の整備（災害に強い道路網整備、利便性向上のための町道整備）

2. 「愛にあふれるふるさとづくり」

町民一人一人が愛情あふれる笑顔に満ちた家庭を築くとともに、「蔵王町」に誇りと愛着を持ち、愛にあふれるふるさとづくりを目指します。

主な取組として

- 結婚・出産・子育て支援の充実（幼稚園3年保育、こども園の整備促進、遊具の整備）
- 個性ある地域づくりの支援（地域住民の主体的な活動の支援）
- 郷土愛あふれる人材の育成（蔵王の自然、歴史、文化に慣れ親しむ教育の推進）
- こころと身体の健康づくりの充実（疾病予防対策の推進）

3. 「オンリーワンな魅力づくり」

蔵王の雄大な自然や多種多様な産業は、蔵王町を特徴づけるものであり、誇れるものです。これらのモノや環境など独自の魅力を磨き上げ、発信することで、オンリーワンな魅力あるまちを目指します。

主な取組として

- 多面的な農業の振興（ブランド化と地産地消の推進）
- 観光まちづくりの強化（戦略的な観光情報の発信、訪日外国人観光客の誘致）
- 良好な景観形成と保全（里山整備、桜などの植栽による名所作り）

第5章 計画の推進体制

町民ニーズが多種多様化する中で、町が果たすべき役割が果たしているか、本計画の目的が着実に達成されているかを把握するため、計画の PDCA サイクルによる進行管理は欠かすことができません。

成果指標は、施策を展開することで、町民や地域がどのように変化してきたかを把握するため、成果目標を設定し、評価、検証を行います。

実施計画については、最小の経費で最大の効果をあげるために、評価や予算との連携を確保するとともに、情勢等の変化に合わせて毎年度、点検と見直しを行い、継続的改善に取り組みながら推進していきます。

計画的に PDCA サイクルを循環させて継続的改善に取り組みます。

PDCA…Plan（計画）→Do（実行）→Check（評価）→Action（修正・改善）